

萬福寺だより

第21号

HP <http://www.manpukuji.or.jp>

馬込から気持ちのよい風が吹いてくる

発行／曹洞宗 萬福寺護持会

2015年春号／no.21／平成27年3月1日発行

白田坂上バス停近くの「磨墨塚」(大田区南馬込3-18)



馬込の史跡

する すみ づか

「磨墨塚」が

萬福寺へ
寄進されました

宇治川合戦を描いた錦絵。宇治川を渡る磨墨と梶原景季

詳細は2頁参照



当山創建八百年を記念して建立された「するすみ」の像

皆様でお墓参りにお出かけ下さい!!

21日(土・春分の日)午後1時から落語会、2時からご法要

萬福寺の行事はどなたでも参加できます。



献供 (けんぐ)



お身拭い



ご焼香する参列者

12 月31日午後11時から今年1年の感謝を込めて歳末諷経が、引き続き正月の法要、大般若会御祈禱が執り行われました。「大般若経」全600巻の中心となる「理趣分経」を安本由道御導師様が読経されるなか、「大般若経」20巻の転読が行われ、今年1年の無病息災、祈願成就が御祈禱されました。

その後行われた恒例の鐘つきには400人を超える参詣者が訪れ、それぞれの思いを込めて鐘をつきました。参詣者にはお寺で前日から準備された豚汁などが振る舞われ、順番を待つ参詣者の皆



年を越して寒さが増し、あたたかい豚汁・甘酒は大好評

思 いがけない師走の総選挙となった12月14日(日)、冬晴れの寒さ厳しきなか午前11時から本堂で御本尊阿弥陀如来三尊仏の沐浴式・御開帳を行いました。護持会役員、檀信徒の皆様が出席するなか、検査入院中の安本利正住職様に代わって由道副住職様が式師を務められ、御開帳、お身拭いの儀式が滞りなく執り行われました。

本尊阿弥陀如来三尊仏の沐浴式・御開帳
平成26年12月14日(日)

初めてお身拭い供養を経験された安本由道副住職様は式後、「昨年、住職も申しておりましたが、何百年も昔から代々守り伝えてきた、まさに荘厳極まる、壮大な御本尊様の御身をおぬぐい致しますと、その重責に身が引き締まります。本堂に今、大切なことを仰せつかったいのだと実感しました。その気持ちを忘れずに護持会、檀信徒の皆様とともに歩み、精進してまいります。ご高配のほど賜りますようお願い申し上げます」と挨拶されました。

この後、お身拭いたきれ(布)を小さく切って参詣者に分けたという故事にならい、ご供養された浄巾(タオル)が参詣者に配られました。

除夜の鐘つき
正月大般若会御祈禱
平成26年12月31日(水)
平成27年1月1日(木)



参詣者の背中を「理趣分経」でたたいて厄を払う御導師様(左)

磨墨塚を寄進する心

萬福寺住職 安本利正

磨墨塚は南馬込三丁目、白田坂上の道の東側にあって、古くから金子家が護持してきましたが、広大な屋敷も分割して都市化され、現家族の田中千恵子氏、内麻夕美氏、金子敏夫氏、金子共子氏の四氏は、将来の磨墨塚をいかに保存するか再々思考し熟慮の結果、「現状のまま共同して萬福寺に寄付し、永久保存を願うことが、遠古からのご先祖様方の願望を成就する最善の報恩であると存じた次第です」と申しでられ、平成二十六年十二月五日にこれを拝受しましたので、ここに皆様にお知らせする次第です。

名馬磨墨の回顧

鎌倉時代初期の寿永三年正月(八三一年前)、京都で反乱を続ける木曾義仲を追討するため鎌倉幕府は源範頼と源義経を大将として義仲追討軍を発した。範頼は名馬月輪を所有し、義経は青海波、畠山重忠は秩父鹿毛、和田義盛は白波、梶原景季は名馬を持っていた。將軍源頼朝は池月と磨墨を所有していた。景季は頼朝の出陣の命を受けたので、名馬池月を乞うたところ、頼朝は静かに諭し「範頼をはじめこの馬を所望する者は多く、皆与えざりき」、そして磨墨を預け賜う。景季謹然として出づ。

その翌日に佐々木高綱が近江より馳せ来たる。頼朝は「此の頃は近江に有りと聞きつるに、何とぞ其の地より出陣せざるぞ」、高綱はつと頭を下げて曰く「今一度見参にも入り、御下知を蒙らばやと急ぎ馳せ参じたるが、道中三日馬損じ

て物の用にも立たず、あわれ御料馬を下し賜へ」。頼朝は池月を引かせ賜う、高綱平伏すると「その馬は梶原源太景季が所望せしが、与えざりし物ぞ、よくよく心得て候うべき」。高綱それを聞いて益々感激す。

諸軍はすでに前夜出発す。高綱急ぎて後を追う。諸軍は進んで駿河国浮島ヶ原(静岡県沼津市西端)に到る。景季は馬を丘山に立てて諸將の乗馬を望み見る。範頼の月輪、義経の青海波、それぞれ駿馬なれども磨墨には及ばずと見えたり。景季は優越揚々として得意であった。その時、後方より高く嘶く声あり、二声三声、畠山重忠それを聞いて「正しく池月の声ぞ」、景季それを聞いて驚いて気色動く。重忠は高きに登り見れば、佐々木高綱なりと号ぶ。

佐々木に賜る程ならば、何で景季にこそ賜うべけれ、景季に賜わらじて、何で佐々木に賜うことこそ奇怪なり。

高綱それを聞いて答えを思いつく。「これには仔細候あり、我が馬を損じて御馬を所望したが、すでに磨墨は御身に賜わりて見えず、池月は誰にも賜わらず、然れば高綱などに賜わること無しと、あきらかに盗み取り来たるが候なり、若し後日御勘気を蒙らば、御辺高綱のために御詫びし玉へかし」と誠にやかに告ぐれば、景季それを聞いて漫心の気色やわらいで「さらば我も盗みたらんものを」と打ち笑いつつ共に連れ立って西へ向った。範頼は三万余騎、義経二万五千余騎、義経馬を宇治川の河畔に進めて発令す。河辺に二騎あり、前は梶原景季、後ろは佐々木高綱、共に流れを切って進む、河中に流す縄や妨害を切って進むと、後方

より高綱呼びかける「梶原殿、御馬の腹帯ゆるみたり」、景季見れば果してゆるんだり、弓を口にぐわえて締め直す、高綱駆け進みて先に進む、扱は謀られたか、畠山重忠それを見て、先登第一は高綱、第二は景季なり、と大音声に呼びわたりたり。

以上は、源平盛衰記の記述に従って書いたものです。この宇治川先陣争いは、日本の騎馬戦上で最高の事蹟として伝承され、それ以後には「馬くらべ」の言葉が生まれて、磨墨は我が国第一の名馬と尊称されるようになった。

梶原家の盛衰

この宇治川先陣争いは鎌倉幕府開幕後五年のこと、今から八三一年前であるが、その翌年の寿永四年には平家を全滅させた大乱の時代であった。その戦勝記録は梶原景時(景季の父)が書状に書いて鎌倉の頼朝へ報告した。連戦連勝に頼朝は喜んだが、多勢の武將の中には記録に漏れたり誤報されたりして怨む武將も多かった。その代表は義経であろう。常に戦法が違っていた。景時は頼朝に仕えて十八年間は優雅な生活が続いたが、頼朝が急死すると、景時に攻撃が集中し、頼朝没後十ヶ月に幕府の武將六十六人の連判状が差し出され、梶原家は鎌倉を追われ相模国一之宮へ移った。翌年正月十九日夜に京都へ向って密かに出発したが、二十日夜に駿河国狐ヶ崎(静岡県清水市西端)にて一族五十人が全滅した。しかし、女房子供は実家へ逃れて育成され、約二十年後には成人して鎌倉幕府の北条氏に仕えることになった。

梶原景季の長男は梶原三郎景望と称して承久の変に鎌倉幕府軍として参戦し功を上げたことから承久三年に武蔵国荏原

郡大井村に領地を給付されて、大井梶原家を創設し、大井丸山に萬福寺を建立し、先祖の梶原平三景時を開基として先祖の威徳を尊崇した。先祖の霊を敬って開基に仰えることを勧請開基と称している。

景望の長男景俊は大井梶原氏第二代を継ぎ、三男の景氏が大井梶原氏第三代を継いでいる。景氏は建長年間に馬籠(今の馬込町)に梶原家先祖代々の墓を建て、墓前に阿弥陀堂を建立した。今より七六〇年前のこと、鎌倉の建長寺は建長元年の創建ですから建長寺と同年頃の阿弥陀堂建立と記憶するとよく覚えられます。この阿弥陀堂の本尊は金銅の鑄造仏であり、現存しています。大田区の文化財調査の結果、鎌倉時代中期の作品で建長年間の鑄造で間違いないことが判明しました。それより約七〇年後の元応二年に大井丸山の萬福寺が火災で全焼した。そこで寺を馬籠の阿弥陀堂へ移し、大井梶原家の屋敷も馬込村へ移している。これは大井梶原氏第六代の梶原景嗣が、馬込村の人達に絶大な信頼を受けていたのである。馬込村の人達は梶原家との交流を最高の栄誉と感激していた実情が推察されます。

梶原氏は鎌倉時代初期には鎌倉郡内に居住し、江戸の馬込に居住したのは六九五年前であり、磨墨塚もそれ以後に成立したものであり、梶原家の馬でも農家の馬でも黒毛の駿馬があれば磨墨と襲名し、それが老死すれば塚を築いて磨墨塚と呼んだことは当然なことと思われる。また、その塚を磨墨塚と呼んだのは、遠い先祖の名馬、宇治川先陣争いの物語を思い八三一年前を偲ぶ信仰の深さである。毎年正月二十日には梶原軍の滅亡を偲んで参拝したことでしょう。(以下、次号へ続く)

萬福寺の公式ホームページをご覧ください。

馬込萬福寺 検索 <http://www.manpukuji.or.jp>

INFORMATION

仏事のご案内

ご家族皆様で参加しましょう

3.21(土・春分の日)

春彼岸法要

午後1時から春風亭柳朝師匠による落語、
2時から法要

ご法要前の心の法話では、地元にお住まいの春風亭柳朝師匠をお招きし、落語を一席伺います。ご家族お誘い合わせのうえ、お出かけください。落語で大いに笑っていただいた後は、御先祖からいただいた今ある幸せに感謝してお墓参りをいたしましょう。

今年は3月18日(水)が彼岸入り、21日(土)お中日(春分の日)、24日(火)が彼岸明けです。

4.8(水)

花まつり

午前11時から法要

お釈迦様のご誕生をお祝いする「花まつり」では、屋根や四方を花で飾った花御堂をつくり、その中に釈尊の誕生仏を安置し、甘茶を注いで讃仏します。境内の桜の花もほころぶ季節でもあります。お誘い合わせのうえ、御参集ください。甘茶のティーバックがいただけます。



「大涅槃図」を説明されるご住職

御葬儀・法要の連絡は
萬福寺本堂総受付まで

法要は「追善法要」ともいい、故人が浄土で安楽であるようにと願いを込めて行うものです。年忌法要は葬儀とは違い予定が立てられます。できれば半年前、少なくとも3カ月前には準備を始めましょう。

御葬儀・法要のお問い合わせ・お申し込み

萬福寺本堂総受付 ☎03-3771-2025

※梶原殿の会場使用につきましては、他社の葬儀社も利用できます。

萬福寺の行事はどなたでも参加できます。

26年度第3回
写経会を開催

平成27年2月11日(水祝)

参加者全員で般若心経を讀経

第3回 写経会が2月11日(祝)、客殿(大広間)で開催されました。本年度最後の写経会とあって37名の皆様にご参加いただき、終了後には本殿でこれまで皆様によって書き上げられた「般若心経」の御写経を摩尼輪堂に奉納する法要が、安本由道副住職様式師のもとで営まれました。

法要に先だって波田野章研修委員長から、「本日は祭日でお休みのところ、大勢の方にご参会いただき、ありがとうございます。これからも明るく開かれた行事を行ってまいりますので、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます」とお礼の言葉が述べられ、法要では参加者全員で般若心経を唱和し、社会の平穏をお祈りしました。



写経を奉納し焼香する参加者



静かな中にも熱気があふれた写経会場

涅槃会法要

平成27年2月15日(日)

午

前12時から本堂右側に掲げられている「大涅槃図」の前で、安本利正住職様式師のもと、涅槃会の法要が執り行われました。この日はお釈迦様がインドのクシナガラでのご入滅になられた日です。「大涅槃図」には沙羅双樹のもと、右脇を下に臥して入滅するお釈迦様を多くの弟子が取り囲み嘆き悲しむ様子が描かれています。ご住職様から、「この図(絵)は江戸後期の作で、当時としては大変めずらしく、筆で描かれたものです」とのご説明がありました。

この日は晴天に恵まれたものの、風の強い一日でしたが、萬福寺護持会はじめ30余名が参列して報恩の法要を行いました。

編集後記

萬福寺山門下の向かって右側に、大きな掲示板が出来ました。お寺の行事や案内など、梶原殿の催し物等もあわせて、皆様にお知らせするためのものです。今年も萬福寺護持会ではいろいろと活動・行事を企画しております。『萬福寺だより』紙面とともに、護持会の行事等もお知らせして参ります。

本紙中にもありますように、南馬込三丁目、臼田坂上にある「磨墨塚」の管理をこのたび萬福寺がお引き受けすることになりました。梶原源太景季の愛馬磨墨の埋葬された塚、との伝承があります。歴史的遺産とお寺との結びつきがまた深まりました。春のお彼岸のお墓参りの折、『平家物語』の歴史の世界を楽しみながらお寺の近くを散策されるのも一興かと存じます。

萬福寺だより

緋の衣を被って
達磨姿になる

萬福寺住職

安本利正

達磨大師は千六百年前に南印度の香至(こうし)国の第三王子として生れ、やがて僧になって坐禪を修行して多くの弟子を育てた。今から千五百年前に(今の中国の北部)梁の国に来て梁の武帝と問答を交わしている。その問答は禅問答の代表としても今でも伝えられ、日本の禅僧の入門式には、その問答を模して大声で「梁の武帝、達磨大師に問う」と発言して長い問答が続く大儀式がある。達磨大師はその後、嵩山(そうざん)へ移り、少林寺(今は少林寺拳法の本山)に住して面壁九年の坐禪の行を続けた(仮説では長年坐したので、足を失ったと伝えられる)。嵩山は極寒になると氷点下20度にも達する寒さであるから、達磨大師は緋の衣を頭から被って坐禪した。日本の紙だるまは緋の衣を被って坐禪する姿を示している。写真は、私が緋の衣を頭から被った姿です。

だるまいち
達磨市の思い出

私には昔の思い出、大層愉快な思い出があります。

神奈川県秦野町の東道では毎年12月31日の大晦日の午後から夜中まで、道の両側に大小30店程の出店が並び、大層賑やかでした。特に平塚の業者は眉と口の両側に三段の大きい切り込みを入れて、そこへ黒い毛を長く植え込み長く垂らしたひげだるまを作る伝統がありました。黒く描いた普通の達磨とは違い、堂々たる風格があって特別に立派な姿なものですから、私は好んで毎年買い続けました。

この思い出は昭和40年頃のことだと思います。その頃は大変賑やかで最盛期でありました。私は各店の中で一番多く並んでいる店の前で1尺3寸のひげ達磨を注文しました。職人は奥の竹籠の中から取り出してきて「いいでしょう」と言いながら定価表を見て8千円と言いました。私はしばらく口上を聞きながら「高すぎる、5千円だな」と言うと、「旦那、それじゃあ職人泣かせだよ」と言ったが、私は「5千円」だと言いつづけました。

しばらくして着物のたもとへ手を入れたら1万円札が出てきました。その瞬間に、私は職人の味方をするように見えるべきだと思いました。その1万円札を差し出して「いいよ、いくらでも欲しいだけ取るときな」と言ったら、職人は鉢巻きに巻いている手拭いを手に取って顔を拭きながら前に出てきて、「旦那さん、私は気に入ってしまった」と言いながら札を1枚取り出して差し出してきました。5千円札でした。そして、その御札の上に百円玉一つ乗せて「この百円玉は私の気持ちです、どうぞ納めてください」と言いました。そして大きな声を上げて「おーい、いいお



客様に決まったよ。みんなのお手を拝借」と言うと、皆で手拍子、シャン、シャン、シャン、三度繰り返してパチ、パチ、パチの繰り返して最後にメシャンで(大声で)「おめでとうございます」と言って終了しました。

5千円にまけておいて更に百円玉一つのお返しに私は気をよくして千円札を1枚取り出して職人に渡したら、職人は手を合わせて頭を幾度も下げて、「ありがとう」と言い続けながら、だるまをビニール袋の中へ入れてくれました。

私は「ありがとう」と言って受け取り、いい気分でありました。この風景は何年たっても忘れられない、良い気分です。

昨年末には病気をしたので買いに行けず、友人に頼みました。そのだるまは萬福寺玄関の床に飾ってあります。

(安本 利正)

まだアンケートに答えていらっしゃらない方へ

アンケートにご協力ください

敬老のためのアンケート —80歳（昭和10年生まれ）以上の方はご記入ください—

ご家族に、今年で80歳以上の方はいらっしゃいますか？

※昭和10年生まれの方は、今年満80歳になられます。

名簿を充実させるために必ずご記入をお願いいたします。

萬福寺 FAX 03-3771-2140

ふりがな ご氏名				お電話	
生年月日	明治・大正・昭和	年	月	日	（満 歳）
ご住所					

年間行事予定 萬福寺の行事はどなたでも参加できます。

3月21日（土・祝）

ひが
春彼岸法要

午後1時から落語会、2時から法要

4月8日（水）

花まつり

午前11時から法要



6月20日（土）

写経会

午後1時から

7月13日（月）

うらぼんえ
盂蘭盆会法要

正午から新盆法要、午後1時から法話、2時からお盆法要

7月23日（木）

だいせがきえ
大施餓鬼会法要

午後1時から法話、2時から法要

9月23日（水・祝）

ひが
秋彼岸法要

午後1時から法話、2時から法要

10月18日（日）

人形供養祭

時間：未定



10月28日（水）

きしぼじんきがん
鬼子母神祈願法要

午前11時から法要



11月14日（土）

写経会

午後1時から

12月14日（月）

ほんぞん あみだにょらいさんそんぶつ もくよくしき ごかいちょう
本尊阿弥陀如来三尊仏の沐浴式・御開帳

午前11時から法要

12月31日（木）

除夜の鐘つき

午後11時から法要

1月1日（金）～3日（日）

だいはんにやえ ごきとうふぎん
正月大般若会御祈祷諷経

午前11時から法要

2月11日（木）

のうきょうふぎん
写経会・納経諷経

午後1時から



2月15日（月）

ねはんえ
涅槃会法要

午前11時から

